

船大工の技

船大工は、製作に取り掛かる前に、板図と呼ばれる設計図を描き、これを基にして船を建造する。木造船は、板と板とをつないで船体を組み立てていく、はぎ合わせの技術によって作られた。

船主の好みや要求に応じながら、船大工の工夫と経験を生かして作られた木造船も、海岸の埋立てによって姿を消した。と同時に船大工が奏でる、リズムカルな釘を打つ音も耳にすることはなくなった。

●板図

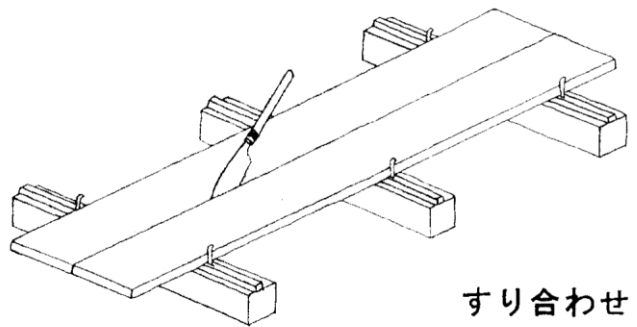
打瀬船や団平船（荷船）の設計図。ありあわせの杉板などに、実物の10分の1や20分の1で描いた。

●墨つぼ

船の材料となる板材に墨線を引く道具。墨を染み込ませた綿の中に糸をくぐらせて引き出し、1点をとめて、手ではじいて直線を引く。

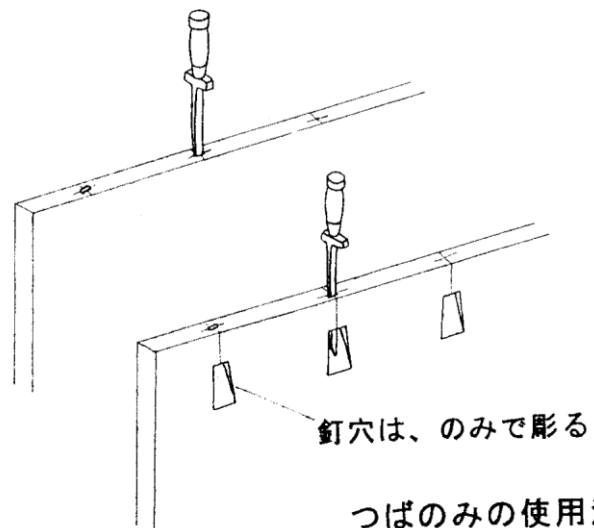
●摺鋸

すり合わせという、合口（板と板との合わせ目）を密着させる作業に用いた鋸。締めつけた板と板の間を、おおずぼ、ちゅうめ、こぶくら、の順番で挽き、合口が隙間なく着くようにした。



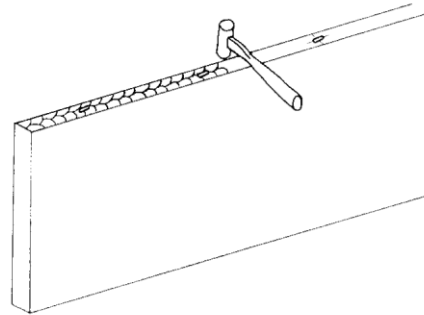
●つばのみ

あらかじめ釘穴を通しておく道具で、金槌で釘穴に打ち込み、抜く時は、アゴを叩き上げて抜いた。また、合口は、船釘を打つ前に金槌で叩いておく。そうすると、水につかってから膨らんで互いに締め合うため、船の中に水が入ってこない。



● 船釘

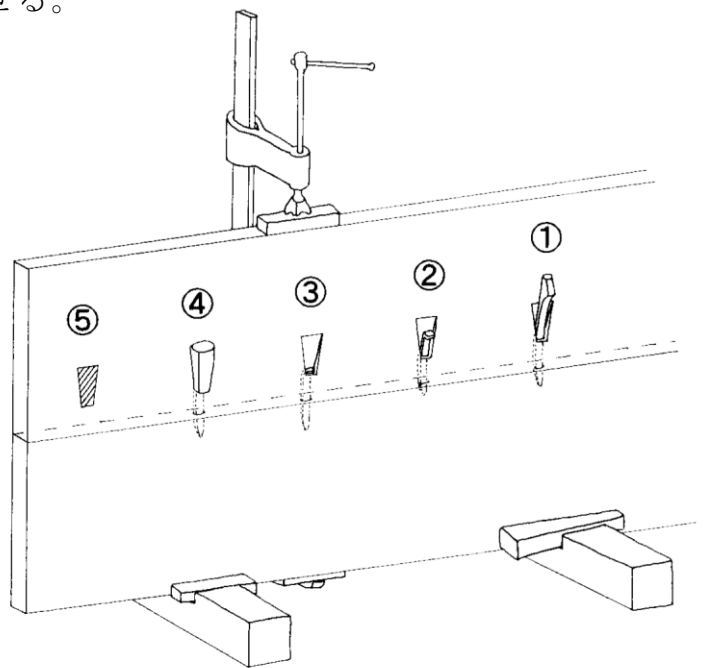
板と板とをつないで1枚の板を作る時に使う落とし釘や、角度をつけて板をはぎ合わせるのに用いるかさ釘（釘の頭がT字形をしたもの）など、釘を打つ場所や船の大きさによって、さまざまな船釘を使った。



木殺し

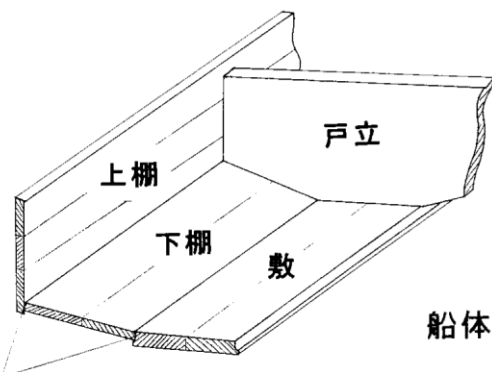
● 落とし釘を打つ

- ①ともづかを使って、釘穴を合わせる。
- ②落とし釘を打つ。
- ③ //
- ④埋木をする。
- ⑤埋木の余分な箇所を鉋で削る。



● 槓皮

杉などの皮を蒸気で蒸して縄状にしたもの。木殺し（合口を金槌で叩いて締めること）が出来ないような場合に、槓皮こみを使って、板と板の間に筋状に打ち込み、浸水を防ぐ。



槓皮を打ち込む